

1 年『オツベルと象』

——生徒の疑問を切り口に本文の叙述をもとに読み取り，考えたことを伝え合う——

○単元・教材の目標とポイント

【単元・教材の目標】

- ・登場人物の心情や行動，情景等の描写に使われている語句について理解している。

[知識及び技能] (1)ウ

- ・複数の場面を相互に結びつけたり，場面と描写とを結びつけたりして，内容を解釈している。

[思考力，判断力，表現力等] C読むこと(1)ウ

【単元・教材のポイント】

本教材『オツベルと象』は，中学生が初めて出会う本格的な文学的文章として位置づけられている。しかし，作者である宮沢賢治の詩や童話は，絵本や小学校の教科書教材などでふれている生徒が多いため，楽しみながら読むことができると考えられる。「……ある牛飼いが物語る。」で始まる全編語り口調文体は，生徒にとってわかりやすく親しみやすい。さらに，擬声語や擬態語，比喩表現などがたくさん使われていて，言葉自体を楽しむこともできる。

しかし，文学的文章として作品世界を深く味わうには，『オツベルと象』はかなり難しい教材であるということもできる。牛飼いが物語る場面とできごとの時間の流れが別に構成されていることや，物語全体の主題が何であるか捉えにくいことなどが，その理由としてあげられる。作品の特徴でもある擬声語や擬態語にはなじみの薄い表現も多く，その状況や意味，効果や役割を考えるには時間が必要である。さらに，言葉巧みに白象を使おうとするオツベルや，オツベルの言うがままに働く白象が象徴するもの，赤衣着物の童子の役割，白象の寂しい笑い，語り手としての牛飼いの思い，そして，最後の一行の意味など，物語を読み取っていただけでは理解できない複数の点が浮かんでくる。当然，本教材を読んだ生徒たちは，この難解さに直面し，疑問をもつ。

そこで，この疑問をもとにし，生徒の主体的な読みを生かした多様な読み取りを共有しながら解釈していく単元を構想した。一人で読んでいただけではわからなかったことがわかったり，自分とは異なる読み方にふれたりする。そして，交流をとおして新たな視点や読み方に気づいたりしていくうちに，さらに深い教材文の理解や味わいへとつながっていく。これは，集団で文学的文章を読んでいく意義や楽しみの一つでもある。

そのためには，本文に使われている語句を正しく捉え，理解する必要がある。今はあまり使われない古めかしい言葉や作者独特の言い回しもある。語句調べの時間を確保して，語句の辞書的な意味を踏まえ，本文における意味や役割をそれぞれ捉えさせるようにする。また，他の時間でも必要な語句を取り上げて丁寧に確認していくことで，出会った言葉について，調べ，文脈上の意味を考える習慣をつけられるようにしたい。

今後3年間の文学的文章の学習の始めとして，構成や表現，言葉に着目して丁寧に読むことを中心に学習を進め，それぞれの生徒の考えを交流する場を設定し，そこから多様な考えを引き出せるように，単元の学習を進めていきたい。

〈言語活動のポイント〉

本単元では，自分の考えを伝え合う活動を行う。その際，生徒の多様な考えを大切にしておくことはもちろんだが，その考えが文脈からは大きく外れてしまい，生徒の自由な発想になってしまっただけでは，文学的文章の学びとはいえない。教材の語句に着目して，本文の叙述をもとに，各場面と登場人物の心情や行動，情景等の描写から内容を捉え，考えさせたり，交流させ

たりしていくことが大切である。そうすることによって、本文を繰り返し読む必要性が生まれ、内容の解釈が深まっていく。さらに、主体的に文章を読む姿勢へとつながっていくと考えられる。

○評価規準

知識・技能	思考力，判断力，表現力等	主体的に学習に取り組む態度
・登場人物の心情や行動，情景等の描写に使われている語句について理解している。	・複数の場面を相互に結びつけたり，場面と描写とを結びつけたりして，内容を解釈している。 C読むこと	・本文から読み取った自分の考えをまとめ，他者に積極的に伝えようとしている。

○学習指導計画（全 7 時）

時数	学習活動	評価基準
1	○本文を読んで初発の感想をまとめる。 ○語句調べを行う。	◇語句の辞書的な意味を踏まえ，本文における意味や役割をそれぞれ捉えている。
2	○登場人物の人物像を捉える。	◇人物像が読み取れる表現を本文から探し，人物像をまとめている。
3	○物語の構成を捉える。	◇時間の流れとできごとを時系列でまとめ，物語の構成を理解している。
4	○疑問点をまとめ，共有する。 ○自分が解決したいと思う疑問点について，自分の考えやその根拠をまとめる。	◇教科書の叙述から根拠となる表現を探し，他の場面や描写を根拠にして自分の考えをまとめている。
5	○疑問点に対する自分の考えや根拠について，班で交流する。	◇自分の考えを積極的に他者へ伝えたり，他者の考えについて意見を述べたりしている。
6	○白象の寂しい笑いについて，個人，班，全体で考え共有する。	◇教科書の叙述から根拠となる表現を探し，他の場面や描写を根拠にして自分の考えをまとめている。
7	○初発の感想を見直したり，これまでに学んだことをまとめたりして，単元全体の学習を振り返る。	◇単元全体の学習を振り返り，感想をまとめている。

○本時の展開（6 / 7 時）

【ねらい】

- ・白象の寂しい笑いについて，本文の叙述を手がかりに他者との交流をとおして理解を深め，自分の考えをまとめる。

【本時の展開例】

学習活動	指導の留意点	◇評価基準
1 前時までの学習を振り返る。	○前時は自分で選んだ疑問点について考えたり班で交流したりしたことを確認する。	
2 本時のめあてを確認する。 白象が「寂しく笑っ」た理由について，考えよう。	○第 4 時にあげた疑問点の中で最も多かった点であることを確認し，意欲的に学習に取り組めるようにする。	

<p>3 白象の寂しい笑いについて考える。</p> <p>(1) 個人で考える。</p> <p>(2) 班で交流し、ホワイトボードにまとめ、発表する。</p> <p>(3) 全体で共有する。</p> <p>4 本時の振り返りとして、白象の寂しい笑いについて改めて自分の考えをまとめる。</p>	<p>○前時と同様にまずは個人で課題に取り組み、これまでの学習や本文の叙述を手がかりにして自分の考えをまとめるよう促す。</p> <p>○班での交流の際には、それぞれの考えの根拠となる本文の叙述に着目して話し合うよう促す。</p> <p>○班で考えをまとめ、ホワイトボードに書くよう指示する。</p> <p>○ホワイトボードを黒板に貼ることで、各班でまとめた内容を比べて共通点や相違点を見つけやすいようにする。</p> <p>○相違点を中心に全体で議論を進め、白象の寂しい笑いについて全体で考えを深めていけるようにする。</p> <p>○本時の学習をとおして考えたことをまとめるよう指示する。</p>	<p>◇積極的に発言し、自分の考えを伝えたり、他者の考えに対して意見を述べたりしている。</p> <p>◇白象の人物像や台詞などを根拠としながら、班や全体で共有した内容を踏まえて、白象の寂しい笑いについて自分の考えをまとめている。</p>
--	--	---

○授業の成果と課題

第4時で生徒があげた疑問点は次のようなものだった。（抜粋）

<p><第一日曜></p> <ul style="list-style-type: none"> ・オツベルがぶらぶら歩いているだけで働かないのはなぜか。 ・白象が小屋にやってきたのはなぜか。 ・オツベルががたがた震えだしたのはなぜか。 <p><第二日曜></p> <ul style="list-style-type: none"> ・白象はだんだん仕事が増えてわらが減ることに何とも思わなかったのか。 ・サンタマリアは何者なのか。 <p><第五日曜></p> <ul style="list-style-type: none"> ・赤い竜の目とはどういうことか。なぜそうなったのか。 ・なぜ白象は助けられた時に寂しく笑ったのだろうか。
--

本実践のポイントは、いかに本文の叙述に着目させるかという点である。そのために、第4時には、下のワークシートを使用した。自分の考えを明確にするだけでなく、本文中のどの表現に着目し、そこから推測されることを自分の考えを支える根拠として明らかにするように構

成されている。これによって、本文の語句を手がかりに、複数の場面を相互に結びつけたり、場面と描写とを結びつけたりして、内容を解釈することができるよう目ざした。生徒の様子を観察すると、自分の根拠となる本文の表現を探するために、何度も教科書を読み返している様子が見られた。中には、読み返している途中で自分の考えの矛盾に気づき、考えを修正している生徒も見受けられた。第5時の交流の際には、「～～という表現から……という解釈をするのは無理があるのではないか。」「〇〇の場面の～～という表現からも……という解釈をすることができる。」など、盛んに意見交流を行っている様子が見られた。教科書の叙述をもとに論理的に思考して判断し、表現する姿が見られたと言える。

「オツベルと象」ワークシート④ 組 番 名 前 ()

【読】複数の場面、場面と描写とを結びつけ、内容を解釈する
 ☆自分が解決したいと思う疑問点を選び、自分の考えや根拠をまとめよう！

1. 自分の考えや根拠をまとめよう。
 ○自分が解決したいと思う疑問点は

である。

○これについては、

という考えをもっている。

○その根拠としては、

教科書 ページ、 行めにある

という表現から、

と解釈することができると考えたからだ。

2. 友達の考えをメモしよう。

3. 友達とのやりとりを踏まえて、改めて自分の考えをまとめよう。
 (私は、……という疑問点について、○○を理由に、くくだと考える。)

本時（第6時）では、白象の寂しい笑いに着目し、個人→班→全体で考えを深めていくこととした。この疑問点は、初発の感想や第4時で多くあがっていたものである。本教材の主題に迫る大きな問いであると捉え、全体で扱うこととした。個人から考えていく流れは第4・5時で行っており、第5時の交流の際に、物語の理解が深まっていたり、この疑問点に関わることがあがっていたりしたこともあって、円滑かつ深まりのある授業を展開することができた。

第7時に単元の振り返りとして書いた生徒の感想には、「何度も読んでいるうちに実はこうではないかという考えが浮かんできておもしろかった。」「なんとなく自分の考えはまとまっても、本文から根拠を探してくるのが難しかった。」「同じ疑問点なのに全然違うことを考えている友達がいて驚いたが、話し合っていくうちにどちらの解釈も納得することができてよかった。」「宮沢賢治さんの作品は訳がわからないと思っていたが、じっくり読んでみるとおもしろいということがわかった。他の作品も読んでみたい。」などがあがった。